資料３

**大阪の成長戦略における国際博覧会の位置づけ**

・大阪の成長戦略は2020年に向けたものであるが、目指すべき将来像や施策展開の方向性はそれ以降も継続されるべきもの。

・国際博覧会の開催は、集客はもとより、大阪の成長の全般的な推進力として、将来像を早期に実現するための仕掛けのひとつ。

・また、先進国・アジア諸国に先んじて人口減少や高齢化が進む中で、課題解決に向けた先進的モデルの世界への発信にも寄与。

**集客都市としての国際的評価の確立、投資促進による経済成長**

・外国人観光客の増加、経済成長による就業者数の増加への期待

**世界が注目する人口減少・超高齢社会への課題解決モデルの提示**

・超高齢社会に対応した街づくり・システム構築

（ex）スマートエイジングシティ、介護ロボット普及、ビッグデータによる健康管理、ICT/IOTによる見守り、パーソナルモビリティ活用、都市型CCRC　等

**新たなイノベーションや都市再生の起爆剤**

・新技術・システム等の開発・発信、インフラのリノベーション

（ex）新技術：再生医療、遺伝子治療、BNCT、水素社会構築、蓄電池・超伝導技術、インフラ長寿命化、植物工場、自動運転技術、人工知能　等

　　　都市再生：リニア、関空アクセス、IR　等

**＊東京一極集中是正の象徴的なプロジェクトとして地方創生にも寄与**

**大阪の成長戦略**

将来像の早期実現

**施策展開の方向性**

1. 集客力強化
2. 人材力強化
3. 産業・技術の強化
4. 物流人流インフラの活用
5. 都市の再生

寄与

**<国際博覧会の効果、期待>**

・観光客の増加（愛知万博の外国人来場者数平均5668人／日）

・知名度、都市魅力の向上（森記念財団調査：大阪は世界40都市中26位）

・市民参加や国際交流の推進、異文化理解

・若手専門家や技術者等の活躍の場（デザイナー、建築家、研究者等）

・新技術の活用・実証実験、中小企業の技術発信の場（愛知万博は地元中小企業による合同パビリオンを出展）、海外展開への布石

・会場へのアクセス整備

・会場跡地の有効活用（環境との調和）

**<経済効果：愛知万博における中部地域への効果>**※決定から開催まで期間合計

ＧＤＰ：　約1兆円（府内総生産の約2.7％に相当）

雇用者：　約11万3千人

**<訪日外国人>**

　愛知万博開催期間中は、国内の訪日外国人数は対前年比約10％増／日

**数値目標**

* 実質成長率　年平均２％以上
* 雇用創出　年平均1万人以上
* 来阪外国人　650万人

　　　　　　　　　　　　　　　等